

みんなで祝おう!!

みんなの『ちいさいなかま』

50 周年

創刊50周年
お祝い
メッセージ
大募集



『ちいさいなかま』は、豊かな保育・子育てのために日常的に学び、交流したいと願う保育者・職員、保護者、研究者たちの手によって、1971年に創刊されました。どこかのえらい人の話を一方的に伝えるものではなく、オーナーもおらず、広告宣伝料で発行しているわけでもない『ちいさいなかま』は、本当にちいさな、ちいさな雑誌です。でも、子どもたちの笑顔と未来を守りたいおとなたちの手から手へと引き継がれ、大切にされてきて50周年を迎えます。そこで、みんなで祝おう! みんなの『ちいさいなかま』創刊50周年メッセージを大募集します。

あなたは、『ちいさいなかま』といつ、どこで出会いましたか? あなたにとって、『ちいさいなかま』はどんな存在ですか? 下記の要領で編集部までどしどしお送りください。

- テーマ・内容／わたしと『ちいさいなかま』、『ちいさいなかま』のここが好き、『ちいさいなかま』をめぐる思い出やエピソードなど。
『ちいさいなかま』購読歴も入れてください。

●字数／100字以上

●締め切り／4月10日

●送り先／『ちいさいなかま』編集部・50周年メッセージ係

Fax : 03-6265-3230

Email : udg79423@nifty.com



創刊号表紙 (1971.8月号)

いま地球の上に
三十数億の人々がすんでいる
しかし この子と同じ子は
たゞのひとりもいはいない
山のみち 街のみちに
多くの人々が通って行く
しかし 人生の一筋のみちは
その人のほかには通りはしない
保育や教育そして、人生はいつも創造的でなければならぬことはあきらかです。創造性は偉い科学者や芸術家のみあればよいものではなく、一人ひとりの人生はそもそも本質的に創造的なものです。
保育の社会化のとうとうと進む時代、わたしたちは、自分をしばり、子どもをしばる古くさい保育理論を批判しつつ、あたらしい保育理論をつくり出しましょう。みんな現場の力をあわせて。
(東横西久保保育園長)

近藤 薫 樹

『ちいさいなかま』の誕生おめでとう
(創刊によせて)

今が一番 『ちいさいなかま』を読んでいる！

『ちいさいなかま』は、第1号から私のそばにずっとありました。1969年第1回全国保育団体合同研究集会（合研・当時の名称は全国民間保育団体合同研究集会）が開催されたとき、私は保育学生1年生で長野県湯田中の地で暑い～熱い興奮の渦の中にいました。そして、『ちいさいなかま』が創刊され、私は公立保育園の保育者として参加した1971年第3回集会では、「青い空は」のうたをず～っと歌っていた思い出があります。

振り返ってみると、公立保育園保育者としての40年間は、積読のことが多かったのですが、2005年第37回全国合研広島集会のときに実行委員として『ちいさいなかま』係を担当し、宣伝のおもしろさを見つけたころから、毎月の号でどこか1か所をつかむ読み方になりました。

定年退職後は民医連の保育園建設に携わり、8年間民間保育園に勤めました。そこで「広島市安佐南区ちいさいなかまの輪」を結成し、手あそびやうた、絵本などの交流と『ちいさいなかま』の読み合わせを10年間継続して、公私立の枠を超えて交流してきました。このなかでは、他園の若い保育者たちが要点をまとめて話す姿に刺激を受けてきました。

今年の第53回合研の開催地は広島です。進行中の開催地実行委員会のなかで、ちいなかタイムを設けています。輪番制で『ちいさいなかま』の内容を選び、読み合わせやグループ討議をするのですが、思わぬ(!?)ページが選ばれて、新鮮に感じることもあります。1番目は「わたしのストレス解消法」のページで、結構盛り上がり、笑い声が響きます。このときに、『ちいさいなかま』の活用方法はなんでもありだなと思えました。

コロナ禍のなかでWeb会議が増えましたが、『ちいさいなかま』をとおして、「へえ～」「そうなんだ！」と保育の雑談や子どもの姿のおしゃべりのなかに大事なことがいっぱいあることを実感しています。

今が一番『ちいさいなかま』を手に取りめくって、読んで、しゃべっています。

みんなで祝おう!!

みんなの『ちいさいなかま』

50 周年

創刊50周年
お祝い
メッセージ
大募集!



イラスト—近藤理恵

あなたは、『ちいさいなかま』といつ、どこで出会いましたか? あなたにとって、『ちいさいなかま』はどんな存在ですか?

下記の要領で編集部までどしどしお送りください。

- テーマ・内容／わたしと『ちいさいなかま』、『ちいさいなかま』のここが好き、『ちいさいなかま』をめぐる思い出やエピソードなど。
『ちいさいなかま』購読歴も入れてください。

●字数／100字以上

●締め切り／5月10日

●送り先／『ちいさいなかま』編集部・50周年メッセージ係

Fax : 03-6265-3230

Email : udg79423@nifty.com



1981年8月号(創刊10周年)表紙
(表紙イラスト 西巻茅子)



配達・集金の時間が いろいろなことを学ぶ時間に

広島短大を卒業し、故郷の松江に帰ってきたのは1977年の3月。無事希望だった保育園に勤務でき、とてもうれしかったことを思い出します。先輩たちが、毎週自発的に「積み木の会」という勉強会を企画され、『ちいさいなかま』の読みあわせや日常の子どものこと、乳幼児の発達のことなどを熱心に話しておられました。右も左もわからない私には、その時間がとても新鮮だったことや、先輩たちがキラキラしていて、少しでも近づきたいと思ったことを思い出します。

同じ年の9月、島根保育問題研究会を立ち上げ、松江・出雲のなかまとの交流も始まりました。そんな矢先、職場の先輩たちが同時期に何人も産休に入られ、『ちいさいなかま』の配達・集金は、園内はもちろん松江市内の読者のみなさんの分も私の役目になりました。

配布が何冊だったかは忘れましたが、事前に電話で、約束をして『ちいさいなかま』を持ってお休みの日に出かけました。「上がっていかない？」とよく声をかけていただき、上がり込んでお茶をいただきながら、いろいろな保育園の話を聞いて驚いたり、大変な職場でよくがんばっておられるなど感心したり、同じ保育士としてとても勉強になる時間でもありました。

今、私の保育園でも、『ちいさいなかま』は職員の必読書となっていて、学習会やクラス懇談会等で活躍しています。このちいさな雑誌が、一生懸命に保育者や父母を子育てなかまとしてつないでくれているな、と実感しています。

『ちいさいなかま』の存在価値は年々大きくなっていると感じています。創刊50周年本当におめでとうございます。



祝！ 創刊50周年 クイズ

みんなで祝おう!!

みんなの『ちいさいなかま』

50 周年

『ちいさいなかま』は8月号で
創刊50周年を迎えます。そこで、
祝！創刊50周年クイズです！ 以下の問題の答えを、下記メールか
FAXへお送りください。全問正解した50名の方に先着順で、表紙で
おなじみのつちだよしはるさんのイラスト入りミニトートバッグを
差し上げます。ご応募お待ちしております！

問題

Q1～Q4の○に数字や文字を入れてください
Q5は、一つ選んでください

●プレゼントの発送をもって、
当選者の発表に代えさせて
いただきます

Q1.『ちいさいなかま』の創刊の年は、西暦〇〇〇〇年です。

Q2.『ちいさいなかま』は、年に一度開催される全国保育団体合同研究集会
のなかで、日常的に学び、交流できる機関紙を作ろうと話しあって生ま
れました。この研究集会は、略して〇〇〇〇と呼ばれています。
(ひらがな4文字)

Q3.約50年続く長期連載が2つあります。一つは口頭詩（とびら詩）、もう
一つは、「保育問題〇〇」です。(漢字2文字)

Q4.『ちいさいなかま』のキャッチフレーズは
「保育者と〇〇を結ぶ雑誌」です。
(漢字2文字)

Q5.『ちいさいなかま』創刊号の定価は
いくらだったでしょう？

①50円 ②100円 ③150円



●解答送り先

『ちいさいなかま』創刊50周年クイズ係

Email : udg79423@nifty.com

Fax : 03-6265-3230

たくさんの人に支えられ、 『ちいさいなかま』から広がる輪

私が『ちいさいなかま』と出会ったのは、保育園に勤めだした2010年のことです。はじめは、保育で悩んでいることが特集されていたら読むだけで、活用できないままでした。

『ちいさいなかま』の魅力やなかまとつながりあう、語りあうことの楽しさを知ることができたのは、2014年の第46回全国合研福岡集会のときでした。全国合研に参加するのもはじめてのなか、開催地実行委員会の『ちいさいなかま』部の長を務めることになり、右往左往していました。そんな私を支えてくれたのは、部のなかまたちでした。私よりも若い保育者たちが中心になって、『ちいさいなかま』を知らない人にまず手に取ってもらうために、こんなに魅力的な雑誌なんだと宣伝しようとポスター作りが始まりました。読み合わせ、「悩みにそったところもだけど、クスッと笑えるところもいいよね」「保護者もみんなとつながってるって感じられるのは、やっぱり読者のページじゃない?」「食事のこと悩んでる家庭も多いよ」「でも、全部載せたらもったいないよね。あっ、続きが気になるってなった人が読みたくなるかも」と、その月ごとにポスターを制作し

て、地域の保育園や、自分が卒業した大学・短大に宣伝しに行きました。

どこかで研修があると聞くと、研修会場に宣伝ブースを作って宣伝隊を結成し、「購読したよ」「読んでるよ」と声をかけてくれる人が増え、つながりを実感でき宣伝することが楽しくなりました。特に、新規購読者向けに部で作った指人形は好評で、今でも声をかけてもらえるほどです。

合研をきっかけに、『ちいさいなかま』の普及をとおして、たくさんの人に支えられ、広がったなかまの輪が私の一番の思い出です。



2010年4月号表紙

祝！ 創刊50周年 クイズ

みんなで祝おう!!

みんなの『ちいさいなかま』

50 周年

『ちいさいなかま』は8月号で
創刊50周年を迎えます。そこで、
祝！創刊50周年クイズです！ 以下の問題の答えを、下記メールか
FAXへお送りください。全問正解した50名の方に先着順で、表紙で
おなじみのつちだよしはるさんのイラスト入りミニトートバッグを
差し上げます。ご応募お待ちしております！

問題

Q1～Q4の○に数字や文字を入れてください
Q5は、一つ選んでください

●プレゼントの発送をもって、
当選者の発表に代えさせて
いただきます

Q1.『ちいさいなかま』の創刊の年は、西暦○○○○年です。

Q2.『ちいさいなかま』は、年に一度開催される全国保育団体合同研究集会
のなかで、日常的に学び、交流できる機関紙を作ろうと話しあって生ま
れました。この研究集会は、略して○○○○と呼ばれています。
(ひらがな4文字)

Q3. 約50年続く長期連載が2つあります。一つは口頭詩（とびら詩）、もう
一つは、「保育問題○○」です。(漢字2文字)

Q4.『ちいさいなかま』のキャッチフレーズは
「保育者と○○を結ぶ雑誌」です。
(漢字2文字)

Q5.『ちいさいなかま』創刊号の定価は
いくらだったでしょう？

①50円 ②100円 ③150円



1991年8月号（創刊20周年）表紙
（表紙イラスト 土田義晴）

●解答送り先

『ちいさいなかま』創刊50周年クイズ係

Email : udg79423@nifty.com

Fax : 03-6265-3230

子育てに息切れしたときに 『ちいさいなかま』を開きます

私は、8か月の未就園児の娘を育てている母親です。

地域の「つどいの広場」で行われた子育て講座に参加したところ、市立保育園の先生も参加しており、「読んでみませんか？」と、『ちいさいなかま』の見本誌をくださったことが、購読のきっかけです。

はじめての育児は不安だらけで、正解はない！と割り切ることもできず、これでいいのか？と悩んではスマホを開いて検索ばかりしてしまいます。

私は息切れして、気持ちを切り替えたいときに、『ちいさいなかま』を開きます。

毎月の特集は、娘が生まれるまでは考えたことがなかった問題を提起してくれますし、未就園児の子どもをもつ身としては、保育園ってこんなところなんだと、イメージもつきやすいです。

何より、『ちいさいなかま』を通じて保育士の先生方や、ほかのお母様の声が聞けることが励みになりますし、たくさんの人に支えられながら育児をしていることに気づかせてくれます。

子どもの成長は毎日アップデート！ついていくのが精いっぱい毎日ですが、『ちいさいなかま』を読み進めながら、私も母親として前に進んでいきたいと思っています。



以前、大阪の保育園で作られた
購読申込書です

子育てに 悩む保護者の 味方！



♥ 創刊五〇周年おめでとうございます。第一子が生まれたときはいっぱいいっぱいで、子育てをきちんとしないと子どもに申し訳ないと思っていました。でも、『ちいさいなかま』と出会ったことで、子育てのしかたや子どもの発達を知ることができ、少しでも実践してみようと思えました。また、いろんな読者のコメントを見て、「少し力を抜いて子育てしてもいいんだ」と思えて、本当に励みになりました。『ちいさいなかま』との出会いが、私の子育てをサポートしてくれたことは間違いないと思います。五〇年間も続けてこられていること、過去の先輩を含め、すべ

ての方に感謝します。そして、リアルな保護者、保護者の声を反映している『ちいさいなかま』は、これからも続いてほしいと切に願っています。（大阪・父親）

♥ 今は雑誌やインターネットなど育児に関する情報があふれていますが、「こうでなければいけない」という理想や「親の責任」ということがいっしょに並んでおり、いろんな問題へ頭をぶつけながら子育てをしている親にとって、情報が多いゆえに悩みが根深くなる時代だと思っています。そのなかで、『ちいさいなかま』は、保護者・保育者など分け隔てなく、子どもに関わるみなで「こんなことで困った!」「こうすれば子どもたちの反応が変わったよ!」「その問題はこうしていけばどうか

読者の
みなさんからの
メッセージ

祝！50周年



わたしと

『ちいさいなかま』

な」と共感し、寄り添い、「いっしょに考えようよ」と言われている気持ちになりました。これから誕生する子どもたち、保護者・保育者のみなさんへも『ちいさいなかま』というあたたかな場所をずっと届けてください。（兵庫・母親）

♥『ちいなか』を読み始めて五年。まだまだわからないことだらけだった五年前、誰にも相談できなかったときにも、『ちいなか』のいろんな話を読んで励まされたり、涙したり、笑ったりしてきました。「私だけじゃないんだ！」とか「こんな意見もあるんだな」といろんな視点で見させていただきました。なんといつても、みんな子ども中心に生活しているんだなーと思ったことが何よりも心強かったし、子どもを大切に思っていることが、読者・『ちいなか』

を作っておられる方々から伝わってきて、これが全国の子育て世帯に広がるいいなーと本当に思っています。これからのいろんな形で子育てを応援していただけるとうれしいです！（島根・母親）

♥『ちいさいなかま』は、長男が一歳半のときから読み始めました。息子が発したおもしろいことば、笑っちゃう行動、困った行動、そんな成長のあれこれを、いろんな人と共有したい、とモニターをさせてもらいました。書くことで何度も救われました。また、私に社会問題を考えるきっかけもたくさんくれました。二男も卒園、『ちいさいなかま』も卒業です。この六年間、枕元にはいつも『ちいさいなかま』がありました。子育てのお供を、心から感謝します。（愛知・母親）

『わたしとちいなか』のエピソード



♥『ちいなか』は薄くてサイズも小さく持ち運びに便利。子どもが喘息で年に何回か入院したり、夜中に病院に駆け込むことも多々ありました。そのときにとりあえず病院に持っていたのが『ちいなか』でした。ふだんはゆっくり読む間がなく、喘息のひどかった長男・長女の子育て中は病院で読むことが常で、まとめ読みもしました（点滴しているベッドの脇や入院中）。子育て真っ最中のときは、私だけでなく大変な思いをしながら仕事と子育てをがんばっている人たちがいる…と、いっぱいエールをもらい元気づけられていました。今でも『ちいなか』を

読むたび、子どもの寝顔を思い出す私です。(埼玉・保育者・母親)

♥昔、母が現役保育士だった頃、家の本棚に並んでいたのを今も覚えています。それが今は私が読み、子育てや仕事でのヒントや励ましをもらっていると思うとすごいなあと思います。大変な仕事だけど、「保育士ってやっぱりいいな」と思えたのも『ちいなか』のおかげです。保育士資格の勉強、レポート作成でもお世話になりました！『ちいなか』に力をもらいながらがんばります。(兵庫・保育者)

♥二〇年前、新卒で就職した園が全員購読！という園だったので、就職と同時に『ちいなか』を知りました。その頃は泊まりの職員旅行があり、まだ若かった私はほかの先生たちとうまく関わらず、一人の時間があるだろうと『ちい

なか』を持っていき、旅館で読んでいると、一つ上の先輩に「何やってるのー!?こんなところまで持ってきてー! (笑)」と驚かれ、みんなに笑われた思い出があります。

『ちいなか』は読みやすいし、読者のページなど身近で共感できる内容から、発達などの勉強になる内容、献立などいろいろ載っている楽しい一冊です。五〇年という長い年月を経ても、変わらない人たちの思いが詰まった『ちいなか』。これからも末永く続いてつながつていったらいいなと思います。(神奈川・保育者)

はじめは積読
そんなわたしが
なぜ、ハマったか



♥『ちいなか』に出会って…早一〇…一七年目!? 保育士二年目から

「みんな購読してるから」と言われて購読し始め、読んだり、読まなかったり(ごめんなさい)。当時は毎日が大変すぎて、読むゆとりがなかったのかなと思います。それが、かぶりついて読むようになったのは、子育てが始まったからでした。赤ちゃん二人の空間から逃避したくて…読みだしたらおもしろい!! として私はこんなにおもしろいものを流し読みですませてきたのか!? と後悔しました。それからずっとファンです。(兵庫・保育者)

♥最初は読めるのかなあ? と思いながら、半信半疑で購読していただけたのですが、子育てをするうちに、なくてはならない存在になっていきました。「あるあ

る」「そういうアイデアもあるんだ」「私といっしょだ」など、安心できる存在に。また、モニターをすることでより考える機会があったり、自分の投稿や子どもたちのつぶやきが載るとうれしくって、このうれしさを広めたいなと思っています。(三重・保育者・母親)

♥ 保育園に勤め始めたときに購読必須！ということを取り始めました。そのときは初めてのことだから「積読」のことが多くありました。少しずつ余裕ができ、読み始め、園職員から母親の立場になり、目線もかわり…今はいろいろな立場から楽しんで読んでいます。特に子育てについては「そうそう!」と共感し、「うちだけじゃないんやなあ」と安心し、ますます楽しんでいきます。いつもありがとうございます! (京都・母親)

♥ 私が生まれる一五年前からあったとは、すごい! 驚きです。私と『ちいなか』の出会い、実はあまりうれしくない出会いでした。新卒で勤めた保育所ですすめられたのですが、よくわからないまま購入となり(読めばよさがわかると思われたのだと思います)、ほんとに保育の、仕事の何もかもよくわからず、読み切れないまま積まれていく。自分の意思がそこになく、押しつけのように感じていました。結婚を機に遠い土地の幼稚園に転職。『ちいなか』とも離れたと思ったのですが、その園でお世話になった、いっしょに読み解いてくださる方にも出会い、「こんなに勉強になる本だったんだ!」と今では一五年読み続ける本となりました。『ちいなか』のなかまのおかげでいつも振り返りながら自

分の保育を考えることができています。『ちいなか』にも全国のなかまにも感謝です。(岐阜・保育者)

♥ 『ちいなか』との出会いは四年前、保育園就職を機にでした。しかしその頃の私はきちんと読むこともせず、ただたまっていくだけの『ちいなか』をジャマだと思っていました(すみません)。出産を機に専業主婦となり購読を中止。その後、子どもの入園をきっかけに保育士に復帰したのですが、その園の保育は疑問だらけ。保育ってこんなでいいの? と感じるなかで、このままだと自分もこの園の保育に染まってしまうと思い、『ちいなか』の再購読を始めました。こんなに『ちいなか』を読みたいと思うなんて! (すみません…) 久しぶりに読む『ちいなか』は私の求めてい

る保育がたくさん！学びたい欲が
 どんどん湧いてきました。『ちい
 なか』は保育と子育てで悩んだと
 きも、元気をもらいたいときも力
 になってくれる大切なパートナー
 です。これからも悩める保護者、
 保育者の強い味方でいてくださ
 い！（大阪・保育者）

すすめてくれた 先生に感謝！



♥自分では気づかなかった「好
 き」を教えてくれた場所でした。
 読むことが好き。知ることが好
 き。考えることが好き。書くこと
 が好き。月一の保育園での話しあ
 いで「ちいなか感想コーナー」があ
 り、ペンをとって発表し、その後
 の思いもよらぬ「モニターやってみ
 ない？」という園長先生の声かけ

のおかげで私の新たな趣味が見つ
 かり、大変感謝しております。五
 ○周年、とてもすばらしいです。
 本当におめでとうございます。も
 つともつといういろいろな方に広まっ
 ていくことを心から望んでおりま
 す。いつも本当に気づきがありま
 とうございます。（群馬・母親）

♥三年前、息子が保育園に入園し
 てからの生活は毎日がバタバタで
 した。『ちいなか』は園で目に入
 るような場所に置いてあったので
 すが、手にとって読むほど興味は
 ありませんでした。しかし昨年、
 先生から「ちいなかのススメ」と
 いう一枚の紙をいただきました。
 その紙には先生の感想がかわい
 いイラスト付きで書かれていまし
 た。その文章を読んで『ちいなか』
 を読んでみたくなりました。
 そして、何か気づきがあればと思

い、年間購読の申し込みをしまし
 た。担当の先生は、行事など
 ても忙しい時期でも、一枚紙を付
 けて『ちいなか』を配ってくれま
 す。それを目次に読んでいくうち
 に自分のお気に入りの連載も見つ
 かり、今では楽しみの一つです。
 『ちいなか』をつなげてくださった
 先生に感謝です。（兵庫・母親）

「二人じゃないよ」 おとな同士を 結び続ける



♥私は新卒のときからずーっと購
 読しているので、購読歴は三〇年
 になります。長いおつきあいで、
 家の本棚にはずらーっと『ちいなか』
 が並んでいます。園の懇談会
 のときには、必ず『ちいなか』で

学び、資料作りに活用しています。自分の実践報告を書かせてもらったこともあり、自分の文章が『ちいなか』に載ったときはドキドキして読みました。一番うれしかったエピソードは、一歳児クラスを担当をしていたときに、保護者が読者のページに投稿し、「笑顔がステキで、クラスの子一人ひとりを大切にしてくれる保育士さんで、担任になってくれる保育士さん」と私のことが書かれていたことです。とつてもうれしくて、今でも保育士を続ける活力になっています。これからも『ちいなか』で学びながら保育士の仕事をがんばっていいこうと思います。（群馬・保育者）

♥『ちいなか』との出会いは、長女が入った園で購読をすめられてからです。毎月娘のポストに入

っているとうれしくて、読むとほっこりした気持ちになりました。

転園することになり、その先の園では購読の取り扱いがなく…迷わず個人での定期購読を決めて今に至ります。子育て、保育とは無縁の人生でしたが、それだけにまだまだ自分が知らない世界があること、そして保育という世界は未来を感じられる、幸せな場だということを強く感じています。私は保護者という立場ですが、読者は保育者の方もいて文字どおり、「保育者と父母を結ぶ」雑誌と感じています。『ちいなか』により、保育に對する知識や考えが深まっています。娘たちが親になったとしたらそのときぜひ、紹介したいと思っています。（群馬・母親）

♥『ちいなか』から感じられるやさしいまなざしが大好きです。

今、コロナ禍の中で、おとな同士がじっくり顔を合わせて話をする

ことがむづかしくなっています。一人で悩んでいるお母さん、お父さん、保育者にとって、『ちいなか』は「自分だけじゃないんだ」「この人と同じなんだ」と共感をもって読んでもらえると思います。（島根・理事長）

♥全国合研集会に（参加者や実行委員として）参加を重ねるなかで、日常的に全国のなかと手をつないでいると実感できるのが『ちいさいなま』だと身にしみて思うようになりました。いつでもどこでも、『ちいさいなま』を開けば実践を交流したり、理論を学んだりして、自分の燃料・栄養を補給し、指針を得ることができると思います。（東京・園職員）

（次号に続く）

みんなで祝おう!!

みんなの『ちいさいなかま』

50 周年

兵庫・
購読歴一〇年

梶本久美子

『ちいなか』創刊五〇周年おめでとうございます! 私が四三歳なので、今読み親しんでいる小さな冊子が、自分が生まれる前からその時代時代のおとなたちが、より良い保育のために連綿と語り合い、活動を続けられてきた証なのだと思うと、とても大きな背中を見ているような気持ちになります。

私は一〇歳、七歳、三歳、全員男の子の母親です。『ちいなか』は保育士をしている叔母からの勧めで、長男を保育所に預けるタイミング(生後半年)で購読を始めた。

初めての育児だったので、『ち

いなか』を読んで「みんな同じようにがんばっているんだなあ」「同じ気持ちの人がいるんだなあ」と通勤電車の中で涙ぐんだことが何度もありました。

初めて目の当たりにする子どもの成長について、ネットを開けばいくらかでも情報はあります。ですが、個人的主観やクチコミ程度のものもあふれかえています。きっとママたちもつながりたいんだろう、ちょっとでも同じ思いをしているママたちにアドバイスをしたいのだろうと思いますが、根拠や責任がないものも少なくありません。そのようななかで、『ちいなか』はまさに保育現場で日々子どもたちと向き合っている保育士の先生、保育や医療(小児科)の

● 6月号と7月号に掲載した祝! 創刊50周年クイズも、受付中です(全問正解者にはつちだよしはさんのイラスト入りミニトートバッグ+お弁当箱をプレゼント)。むずかしいのは、Q5の創刊号の定価。これは8月号のどこかに答えがありますので、探してみてください。

● 送り先
Fax 03-6265-3230
Email
udg79423@nifty.com



専門家のみなさんが記名で寄稿されていて、あたふたしながらも通勤電車の中で没頭して読むちいさな冊子は私の支えでした。

そして二男が生まれ、二人を預けて時短ながらフルタイム勤務するなかで、『ちいなか』から教えてもらう保育士さんたちの保育のくふうや苦勞、行事のあり方など「より深く保育所を理解する」という読み方に変わってきました。

命を預ける場所とは思っていないが、保育士さんがわが子のいろいろに気づいてくれなかったことなどに落胆することもありましたが、『ちいなか』から「子ども・保育は好きだけど、保護者と話すのは苦手」「保育士をしているけれど実は人見知り」という保育士

さんたちもいる、ということを知りました。

また、見逃しや見落としが発生してしまう保育現場の過酷さを理解して、私も子どもがお世話になっている保育所を知っていかないといけない、と思うようになりました。

そして購読七年を過ぎて、つまり保育所生活も七巡目／＼八巡目となってきた頃、三男はとても育てやすかったこともあり、さすがに私も三人目の育児で、大抵のことでは驚いたりあわてたりすることもなくなりました。

一方、職場ではまわりは年下だらけで、女性では私が一番年長（しかも男性の課長以外全員女性）となりました。（二〇月号へ続く）

**まだまだ
募集しています！**

●「わたしとちいさいなかま」
をめぐる思い出やエピソード
をお送りください。

みんなで祝おう!!

みんなの『ちいさいなかま』

50 周年

兵庫・
購読歴一〇年

梶本久美子

(九月号からの続き)

一方、職場ではまわりは年下だらけで、女性では私が一番年長(しかも男性の課長以外全員女性)となりました。経験もあるため、後輩や派遣さんのトレーニングをするような立場になりました。ですが、既婚で子どもがいて時短勤務なのは私だけです。

この頃から、『ちいなか』で取り上げられる「職場の人間関係」のテーマが特に気になるようになってきました。「先輩が忙しそうで質問できない」「思い切って質問したら、そのくらい自分で考えてやっ」と言われて自信をなくした」

「考えてやったことなのに否定された」などなど、これは保育現場だからではなく、どこの職場でも起こるシーンですよ。そして、年齢やキャリアから、後輩たちを束ねる・導くポジションにいないがら、就学前の子どもがいるために時短や休みが多く、後輩のフォローなしには働けない、後輩のお世話になっているワーキングママたち、きっと私だけではなくたくさんいるのではないのでしょうか。

ベテランと新人、正規と非正規、これらの間に起こるコンフリクトは保育現場だけではないはず。後輩がどう考えているのかわからないと常に気を揉んだり不安になったりしています。『ちいなか』での新人保育士さんたち

● 6月号と7月号に掲載した祝! 創刊50周年クイズは、まだ受付中です(全問正解者にはつちだよしはるさんのイラスト入りミニトートバッグ+お弁当箱をプレゼント)。むずかしいのは、Q5の創刊号の定価。これは8月号のどこかに答えがありますので、探してみてください。

● 送り先
Fax 03-6265-3230
Email
udg79423@nifty.com



の投書を読んで、ふんふんそうか
あと気づくことがたくさんありま
す。またベテランさんのちよつと
の気遣いや声がけを明日から真似
してみようと勇気づけられます。
そして施設長さんの苦労を慮つ
て、チームを作っていくための一
つのピースとして自身がどうある
べきか、考えます。やはりワーキ
ングママとして、『ちいなか』に助
けられているのです。

購読一〇年目、改めて振り返つ
てみると、私の『ちいなか』の読
み方も変化があつたのだなあと
思います。きつと『ちいなか』も五〇
年前と今では考え方・記事の内容
がまったく違うこともあるでしょ
う。でもその根本である、子ども
たちの安心安全な暮らしのため、

豊かな保育環境のため、ひいては
子どもたちや社会の明るい未来の
ためにどうしたらいいか、みんな
で考えていこうよ、というメッセ
ージは揺るぎないのだと思います。

わが家の保育所生活は、残すところあと三年になりました。小学生になった長男・二男の生活を見ると、三男も早く小学生になつてくれー(送迎から解放されたいー)と思います。こんなに愛情深くわが子を見てくれて、身近になんでも話せる保育所とのつながりが終わってしまうのかと思うと、少し寂しい気持ちになります。ですが、今後も『ちいなか』を読みながら全国の子どもを思うみなさんとなつたり、共育の一員となつていけたらなあと思います。

まだまだ
募集しています！

●「わたしとちいさいなかま」
をめぐる思い出やエピソード
をお送りください。

みんなで祝おう!!

みんなの『ちいさいなかま』

50 周年

福島・
購読歴四二年

鹿又智子

一九七九年四月、今から四二年前、短大を卒業した私は、東京都板橋区高島平の公立保育園に勤めることになりました。同じ福島出身の先輩保育士さんから「これ読んでみない？」と勧められたのが『ちいさいなかま』です。

当時勤めた保育園は、ゼロ歳児九人を看護師一人と保育士四人で担当、一歳児九人を保育士三人、二歳児一二人を保育士三人、三歳〜五歳児までは複数担任で用務の職員もいました。それがあたりまえと思っていたので、福島に戻って保育所に勤めたときは配置基準

の低さに驚きました。

東京時代の同僚に「一度は合研（全国保育園団体合同研究集会）に行ってみるといいよ」と聞いて

いたので、『ちいさいなかま』を頼りに、たった一人で湯田中（長野県山ノ内町）の会場に出かけました。そこで福島のなかまに出会い、福島県保育連絡会の立ち上げや「保育のつどい」に関わるようになりました。

一九八二年、農繁期のみ開設する季節保育所を二年間任され、ここでの実践を次の年の合研「あそびと生活」の分科会で報告しました。それがきっかけで、一九八三年一月号の『ちいさいなかま』に実践が載りました。うれしかったです!!

● 6月号と7月号に掲載した祝！創刊50周年クイズは、まだ受付中です（全問正解者にはつちだよしはるさんのイラスト入りミニトートバッグ＋お弁当箱をプレゼント）。むずかしいのは、Q5の創刊号の定価。これは8月号のどこかに答えがありますので、探してみてください。

● 送り先
Fax 03-6265-3230
Email
udg79423@nifty.com



イラスト——近藤理恵

『ちいさいなかま』は、私を保育士として育て、保育運動やたくさんさんの保育のなかまとなつなげてくれた大切な本です。これから多くの方々を読んでほしいと願っています。

大阪・
購読歴一五年

森本夕貴

五〇周年おめでとうございませう。実は、入所時の購読募集では申し込みそびれていました。父母の会で民営化問題に取り組んでいたときに『ちいなか』担当が紹介した手記に危機感を覚え、もつと知りたくなり購読開始。彼女の『仕事や子育てにおいても何度もこの本に励まされ、慰められた』とい

うことばにも背中を押されました。彼女のお子さんは延長保育の時間にわが娘とよくあそんでくれて、親子で私たち親子に温かく接してくれた憧れの先輩です。そんな人でも悩み、励ましを求めるのかと関心がわいたのと、憧れの人をまねたいという動機も。

購読を始めて、通勤電車内で取り出すと、向かいにも『ちいなか』を読む人が。どちらともなく声をかけあい、乗り合わせて会話するのが楽しみな仲になりました。直接の出会いだけでなく、顔も知らないけど、立場も地域も越えて「なかまがいた！」と誌面で実感できる、人と人をつなぐ『ちいなか』がさらに多くの人に届きますように！

まだまだ
募集しています！

●「わたしとちいさいなかま」
をめぐる思い出やエピソード
をお送りください。

みんなで祝おう!!

みんなの『ちいさいなかま』

50 周年

春山明美

兵庫・
購読歴三五年

『ちいなか』創刊五〇周年おめでとうございます。半世紀もの長い間、たくさんの人に読み継がれているような雑誌は、私の知っている限り他にはありません。

振り返ると、保育士になってからずっと私の傍らにはいつも『ちいなか』がありました。保育士になりたての頃、保育の「保」の字もわからず悩み、困っていたとき、先輩から「これ読んでみたら」と紹介されました。開いてみると、ヒントになる記事がたくさんあり、ヒントになる記事がたくさんあり、ヒントになる記事がたくさんあり、意味があったのか」「すごいなあ」

「こんなふうに考えて広げていくのか」「私もこんな実践を書いてみたあ」「私もこんな実践を書いてみたあ」「私もこんな実践を書いてみたあ」など、いつも感心して読んでいました。また、「このことについて知りたいなあ」と思うと、不思議とタイムリーな記事に出会うことも多く、とても助かりました。

『ちいなか』を読み続けることで、保育の土台というか根本が知らず知らずのうちに積み重なって来たように感じます。子どもの発達の見方、行事で大切にするのと、毎日の生活とあそびの大切さなど、とても勉強になりました。

そして、ゼロ歳児クラスで作っていた子どもたちのおもちゃを投稿する機会がありました。それがかわいいイラストとともに『赤ちゃんのための手づくりおも

● 6月号と7月号に掲載した祝！創刊50周年クイズは、まだ受付中です（全問正解者にはつちだよしはるさんのイラスト入りミニトートバッグ＋お弁当箱をプレゼント）。むずかしいのは、Q5の創刊号の定価。これは8月号のどこかに答えがありますので、探してみてください。

● 送り先
Fax 03-6265-3230
Email
udg79423@nifty.com

わ・た・し・と
『ちいさいなかま』



『赤ちゃんのための手づくりおもちゃ』

春山明美 著 近藤理恵 絵

B5変型80ページ

定価1540円

ちいさいなかま社

ちゃ』という本になり、とてもうれしかったことを覚えています。そこから、「園で人気のふれあいあそび」や「ベテラン保育者のあそびのワザ！」など連載の執筆につながりました。「来月はこれ」と思っていたのも、日々の忙しさに追われ、いつも締め切りギリギリになりながらも、何年か連載させてもらい、自分自身の保育の幅も広がっていったと思います。

私は現在、子育て支援の担当も兼ね、育児相談にのったり、わらべうたや絵本の育児講座を行ったりしています。保育園や地域のお母さんたちの子育ての悩みに応じて『ちいなか』の記事を紹介したり、お話ししたり、購読をすすめてたりしています。

また、園のちいなか係も担当しています。毎月送られてくる箱から雑誌を取り出すとき、表紙のやさしい色合いを見るのが密かな楽しみです。子どもたちのちいさなつぶやき（口頭詩）があまりにもかわいくてふきだすことも。そして、くふうを凝らした特集はもちろん、あそびや絵本の紹介も楽しみにしています。

これからも『ちいなか』と深く、末永いおつきあいをしたいです。五十路を超えて、なお、めぐっていく時代の流れにのり、元気で味のある雑誌になつてくださいます。私の片隅にある『ちいなか』のますますの活躍をお祈りし、お祝いのことばとします。

まだまだ
募集しています！

●「わたしとちいさいなかま」
をめぐる思い出やエピソード
をお送りください。

みんなで祝おう!!

みんなの『ちいさいなかま』

50 周年

埼玉・
購読歴一四年

小林秀樹

『ちいなか』創刊五〇周年おめでとうございます。

私は、勤務園で初めての男性保育士です。入職当時は右も左もわからず、その日をこなすことで精いっぱいの日々。実習とは違い、保育園で働くことの大変さ、むずかしさを感じていました。先輩の保育にあこがれ、真似をするものうまうまいかず、「自分に保育は向いていないのではないか」「このまま保育士を続けても、子どもたちの成長の助けにはならず、逆に足を引っ張ってしまうのではないか」と悩んでいました。ほかの先生方も

気を使って声をかけてくれたり、話を聞いてくださいましたが、転職を考えたこともありました。

そんなとき、『ちいなか』の男性保育士さんたちの記事を読んで、自分と同じような悩みをもちながらも模索して乗り越え、保育を楽しむ男性保育士さんたちがいることを知り、私の励みとなりました。

また、埼玉で開催された第四九回全国保育団体合同研究会の会場責任者になったときは、多くの『ちいなか』読者のなかまに会いました。会場の点検や指示などででてこまひだったときに、「疲れてない?」「ちょっと休んでいきなさい」と声をかけてくれたのは、『ちいなか』のなかまたちでした。そこで知りあった先生たちとは今

● 6月号と7月号に掲載した祝! 創刊50周年クイズは、まだ受付中です(全問正解者にはつちだよしはるさんのイラスト入りミニトートバッグ+お弁当箱をプレゼント)。むずかしいのは、Q5の創刊号の定価。これは8月号のどこかに答えがありますので、探してみてください。

● 送り先
Fax 03-6265-3230
Email
udg79423@nifty.com



イラスト——近藤理恵

でもつながっていて、「コロナ禍でどんな保育をしてる?」「こんな研修があるけど、参加してみない?」など情報交換しています。

これからも、いろいろな先生方の体験談や考えを読ませていただき、日々の保育に励んでいきたいと思っています。ありがとうございます『ちいさいなかま』! これからもいっしょにがんばろうね!

群馬・
購読歴三年

小畑茜

『ちいなか』担当になって二年目の栄養士です。『ちいなか』の購読者を増やすために『ちいなかだより』を作ったり、懇談会で保護者に紹介したりと、職員みんな

で広げています。そんななか、うれしいことに今年度から園の購読数が三〇冊を達成し、園に直送してもらえるようになりました。

私は給食職員であり、二児の母でもあります。『ちいなか』は、保護者と保育者、両者の意見が書かれているので、「自分と同じこと」で悩んでいる」「こんな考え方もあるんだ」「コロナ禍の対応をこんなふうに行っているんだ」など、たくさんの方の共感や発見があります。

私は活字があまり得意ではありませんが、『ちいなか』は写真やイラストも多いので、サクサク読めます。四月になったら、保護者に見本誌を配布し、『ちいなか』を知ってもらい、購読者を増やしていきたいと今から考えています。

まだまだ
募集しています!

●「わたしとちいさいなかま」
をめぐる思い出やエピソード
をお送りください。

みんなで祝おう!!

みんなの『ちいさいなかま』

50 周年

兵庫・
購読歴一八年

川根 章子

『ちいなか』創刊五〇周年おめでとうございます。

保育士一年目のとき、「みんな入ってるし、みんなとつてもらってるから!」と先輩に言われ、なんのことかまったくわからなかったのに「ハイ!」と返事した私。後に、「入ってる」≡労働組合、「とつてる」≡『ちいなか』だとわかりました。恥ずかしながら新人保育士として必死だった頃は、『ちいなか』を開くことはほとんどなかったように思います。なんでもつたいたいことをしていたんだらう!!

「ちいなかのススメ」を
毎号はさんで

妊娠して産休に入ったとき、山と積んでいた『ちいなか』を手に取るようになり、二人目の産休でついに『ちいなか』モニターに応募!『ちいなか』を開きもしなかった私ですが、ホントにおもしろいぞ、学べるし、ストレス解消にもなるよ!ちよつとでも開いて見て!と、『ちいなか』のおもしろさをみんなに伝えたいと思うようになりました。どうしたら少しでも『ちいなか』を読む気になるかなあ:と考え、はじめたのは「ちいなかのススメ」という超!個人の主観での「今月号ここがおもしろかった!」と走り書きした

● 6月号と7月号に掲載した祝!創刊50周年クイズは、まだ受付中です(全問正解者にはつちだよしはるさんのイラスト入りミニトートバッグ+お弁当箱をプレゼント)。むずかしいのは、Q5の創刊号の定価。これは8月号のどこかに答えがありますので、探してみてください。

● 送り先
Fax 03-6265-3230
Email
udg79423@nifty.com



イラスト——近藤理恵

メモを、毎号にはさむことでした。そんななか今年度ちいなか担当になりました。園に届いた『ちいなか』が入った段ボール箱を開けて、中にぎっしり入っている『ちいなか』と対面する瞬間が私は大好きです。どんなに忙しくても、その瞬間だけはわくわくドキドキ。私のホツとする時間でもあります。

そして、メモをはさんだり、これは！と思った記事は『ちいなか』を購読していない保護者にも読んでもらったり、ポスターを作ってみたり、直接声をかけてみたりしながら、普及に取りくんでいます。

**読むゆとりがないのは
働き方が問題！**

年々デジタル社会になるにつれ

て、「本を読まない」という人が増えているように思います。「この保護者は絶対に読んでくれそう」と思って声をかけても、「読むのは好きだけど、読む時間がなくて」とおっしゃる方も多いです。

読むゆとりをつくれないのは、この日本社会の働き方を改善しないと！と思うし、ゆとりがあれば活字離れや本に対する意識も変わりそうな気がします。

そういう考え方も、私は『ちいなか』に教えてもらったように思います。今の私にできることは、この『ちいなか』愛をあきらめずに、購読なかまを増やすことです！微力ながら、がんばります。これからもステキな『ちいなか』を応援していきます！

**まだまだ
募集しています！**

●「わたしとちいさいなかま」
をめぐる思い出やエピソード
をお送りください。

みんなで祝おう!!

みんなの『ちいさいなかま』

50 周年

鳥取・
購読歴一年

時光直美

私と『ちいなか』との出会いは、職場の先輩からの紹介でした。新卒で働き始めた昨年の春、保育者としてどんなものを参考に学んでいけばいいのか模索していた頃、声をかけていただいたのです。

『ちいなか』には、今を生きる親子の思いや保育者の願いが率直につづられていて、とても勉強になります。毎月届いて、読むたびに初心に戻り、自らのめざす保育士像を再確認するきっかけとなっています。そして、読むとあったかい気持ちになれる『ちいなか』が好きです！

これから、『ちいなか』との時間を大切にして、いつまでも学び続けていきたいです。

兵庫・
購読歴三八年

鈴木裕子

私と『ちいさいなかま』との出会いは三八年前。まず、『ちいさいなかま』のネーミングにひかれました。ちいさい子も一人のなかまとして一緒に育っていこう、保護者の子育ての悩みや心配ごとを保育士も一緒に考えよう、みんなで知恵を共有しよう……この名前にそんな思いがあふれていました。もちろん、表紙絵の柔らかなタッチと色彩にも好感がもてました。でも、子育てで必死の頃は疲れて

●6月号と7月号に掲載した祝！創刊50周年クイズは、3月1日で締め切ります（全問正解者にはつちだよしはるさんのイラスト入りミニトートバッグ+お弁当箱をプレゼント）。むずかしいのは、Q5の創刊号の定価。これは8月号に答えがありますので、探してみてください。

●送り先
Fax 03-6265-3230
Email
udg79423@nifty.com



イラスト——近藤理恵

あまり読めず、積読していたように思います。わが子が大きくなると、保育の視点や行事のあり方、若い保育士の悩みなどを知りたくて、読むことが多くなりました。

また、全国の保育実践があり、年齢別保育も専門的でわかりやすく、保育に困ったとき、『ちいさいなかま』が隣にある生活となっていました。なんといっても、「大事なことが書かれている」という信頼がありました。

今だからこそ広げよう！
そしてさらなる五〇年へ

懐かしいのは、第四四回兵庫合研のときに、地域要員の青色Ｔシャツを着て取りくんだちいなかま宣伝隊です。汗を流して覚えたダン

スや購読者へプレゼントする石鹸作りなどが浮かんできます。購読者を増やすことにこだわって、一人ひとりがどんな声かけをすれば読んでもらえるのかを考え、話しあい、目標を達成できたときはみんな喜びあいました。

コロナ禍の中で、子育てがさらに自己責任化しているように感じます。こんなときだからこそ、一冊一冊に、一人ひとりの想いがたくさん詰まっている『ちいさいなかま』がもっと読まれてほしいと思います。

活字離れと言われますが、五〇年の歴史の土台の上に、さらなる五〇年へと発展するために、『ちいなか』のよさを伝え、みんなを守り、広げていきましょう。

まだまだ
募集しています！

●「わたしとちいさいなかま」
をめぐる思い出やエピソード
をお送りください。